

新エネ・EVモビリティで実現する函館発回遊ネットワーク構想 ～多様なエネルギーを活かす自立型地域を目指して～

代表提案者	(株)テーオー小笠原
協同提案者	三菱重工業(株)、三菱自動車工業(株)、(株)JTBコーポレートセールス、函館自動車工業(株)

函館市は国内有数の**観光都市**として知られ、平成27年には**新幹線延伸**も控えている。しかし、観光産業の更なる活性化や公共交通網の拡充といった課題も顕在化しつつある。このため、**公共交通を補完するEVシェアリングを核としたエネルギーネットワーク**や**多機能エネルギーステーションの構築**を通じ、「訪れたい」「滞在したい」「住みたい」と思われる地域づくりを目指す。

(1)EVシェアリングを核としたエネルギーネットワーク構築

- 函館市内及び道南地域をエリアとして、電気自動車(EV)等によるカーシェアリングのネットワークを構築。
- 観光拠点(函館山、五稜郭等)にEV充電設備等を備えたシェアリングポートを整備。観光客の域内回遊と拠点間移動を実現。
- 地域住民及び地元企業の新たな公共交通としても機能。
- 災害時等にはEVを非常用電源として活用。

(2)多機能エネルギーステーションの構築による創蓄省エネ化推進

- 道の駅/交通結節点/主要観光地などに、多機能エネルギーステーションを整備。
- EV等のシェアリング拠点、エネルギー利用の効率化拠点、地域住民のコミュニティ促進拠点、地域の防災拠点として活用。
- EV充電設備等とともに、太陽光発電や鉄道回生電力の蓄電設備等の配置も検討。

